

## 大島町復興計画素案パブリックコメント報告

### 1. 復興計画素案に対するパブリックコメントの概要

- ・パブリックコメントの期間 平成26年7月25日（金）～8月13日（水）
- ・寄せられた意見数 9件

### 2. 寄せられた意見等の概要と大島町の考え方

章	該当事項	意見・質問等		大島町の考え方
1 大島町復興計画の策定にあたって	1.2 大島町復興計画の策定	犠牲になられた方々へのご供養を祈る言葉と、今後の不明者への対応を記載し、再び犠牲者を出さないために防災のまちづくりを推進していく誓いを明記してほしい。	パブリックコメント	<u>パブリックコメントでのご意見として策定委員会に報告し、検討していただきます。</u>
2 復興計画の基本理念	2.1 復興の基本理念	機能性と併せ、デザイン性も高め、地域の特性とコミュニティを重視（大切に）した、暮らしやすいまちづくりを目指す、観光地として特色ある、景観的に優れたまちづくりを目指していく等を明記して欲しい。	パブリックコメント	<u>パブリックコメントでのご意見として策定委員会に報告し、検討していただきます。</u>
3 全島にかかわる復興計画	<b>復興の柱1 被災者生活再建支援</b>			
	方針③多様なサービスの提供	「1-3-1 応急仮設住宅の維持管理」「1-3-4 こころのケア」で、応急仮設住宅に雨戸を設置して、風雨の恐怖感を和らげてほしい。	パブリックコメント	<u>建物の構造上、また建物自体が、リースとなっているため、特に外壁への加工は制限されていて雨戸設置は不可能となっています。</u> <u>応急仮設住宅の維持管理、生活全般に係るサービスについては、サービス提供の中で、可能な限りご要望に対応していきたいと考えています。</u>
	方針④情報提供と相談体制の確立	「1-4-1 総合相談窓口の設置」に、被災者の生活再建を進めるための具体的な方向付け、対応策の提案、解決までフォローするシステム、相談体制の確立を、日頃の業務を検証する中で対応してほしい。	パブリックコメント	<u>総合相談窓口など相談体制については、ご意見を参考に、大島町役場内各課が連携して充実した対応ができるように努めていきます。</u>
<b>復興の柱2 地域基盤・インフラの復旧</b>				
		土砂災害対策は、土地ごとの自然の歴史や地質、地形、植生、水の流れ、空気の流れ等の特性を理解し、自然環境の一部である人の生活の在り方として、多様な視点からの検討が必要だと思う。従来土木技術だけに頼らない工法等の検討、島の昔か	パブリックコメント	<u>大金沢の土砂災害対策のハード対策は「伊豆大島土砂災害対策検討委員会」の提言に基づき実施してまいります。</u> <u>ご意見については、特に今後のソフト対策の面で参考にさせていただきます。</u>

		らの知恵を生かすことも大切である。		
		行政と専門家と住民が協力して細かく検討し、市民参加による計画として、この地に最も相応しい防災対策、防災工事の方針を考え出していくことが大切である。様々な島の暮らしの知恵を持つ住民が災害対策の策定に参加し、住民の視点を生かした、大島の自然条件に合った災害防止策を作成する必要がある。そのためには十分な時間をかけ、検討を重ねることが大切である。さらに市民が計画づくりのプロセスに参加することが重要である。	パブリックコメント	<u>大金沢の土砂災害対策のハード対策は「伊豆大島土砂災害対策検討委員会」の提言に基づき実施していきます。ご意見については、特に今後のソフト対策の面で参考にさせていただきます。</u>
		<p>* 「元町橋」を「大金沢土石流災害メモリアルブリッジ」と名づけ「木製の橋」にして30年に一度記念日を設け、掛け替えを行い、これまでの犠牲者の鎮魂と三原山の安泰を祈念すべきと提案する。</p> <p>* 土石流が発生すれば木製である故、破壊され流出することから周囲の被害も軽減されるのではないかと。但し、川幅を現状の三倍に拡張し、橋の下は橋よりも広い多目的公園（遊水池的）とする空間が必要とも考える。（王子駅付近の石神井川を参照）</p>	パブリックコメント	<p><u>都道である大島一周道路は、平常時には島内の物流等を支えると共に、水道管等のライフラインも埋設され、島民の生活を維持する機能を持っていることに加え、災害時には避難路・救援路として重要であるため、常に安全の確保が求められています。</u></p> <p><u>よって、元町橋は土石流が発生して流される可能性がある木製ではなく、コンクリート製または鋼製等の強固な構造であるべきと考えます。</u></p> <p><u>犠牲者の鎮魂と災害の教訓を未来へ継承していくべきという理念については、貴重な意見として受け止めさせていただきます。</u></p>
	<b>復興の柱3 産業・観光復興支援</b>			
	方針①島内企業の早期再建と商工業の振興 方針④観光振興の推進	生食要の牛を飼育して厳重な管理のもとに処理を行い生食可能な肉として島内に流通させ、“朝どりの牛”として航空機の貨物輸送により内地へ出荷する。レバー刺（ユッケ）特区として大島でしか食べられない、通年提供できる食材を開発してアピールすることで観光振興の一助になる。製塩過程でできるミネラル分と牧草を与えて大島ブランド牛を飼養すると、なおアピールするポイントとなり、オンラインの価値を最大限活用した大島の魅力発信ができる。	パブリックコメント	<u>新たな特産品開発のアイデアであり、ご意見については、具体的な産業・観光振興策を検討する際に参考にさせていただきます。</u>
	方針④観光振興の推進	過去から現在に至る農業・漁業の推移をみると、とても全島を	パブリックコメント	<u>素案では「復興の柱3 産業・観光復興支援」のなかで</u>

		盛り上げる力はないと認識すべき。残るは観光だが、今までの取組みは中途半端としか言えない。「観光立島」をコンセプトに人・モノ・カネを集中。資源はありあまるほど大島にはある。今、世界でヒットしている映画「ゴジラ」は大島の生まれではないか。なぜ活かさないか。宿泊施設や飲食店のレベルも内地に比べると劣るため、町で各々のレベルを示し全島の引上げも必要である。	ト	「④観光振興の推進」とともに「①島内企業の早期再建と商工業の振興」、「②農業の早期再建と振興」、「③水産業の早期再建と振興」を復興の方針としています。 ご意見については、今後具体的な産業・観光振興策を検討する際に参考にさせていただきます。
復興の柱4 防災まちづくりの強化				
	方針①台風26号に伴う豪雨災害の検証	「4-1-1 台風26号に伴う豪雨災害の検証」に、第三者委員会の設置を加えるべきである。	パブリックコメント	災害検証の方法や委員会の設置等については、ご意見を参考に、今後、具体的に検討させていただきます。
	方針④島内避難体制の再構築 方針⑤避難施設の強化等	都立大島高校に避難したが、地形的に安全な場所だと感じられないので、避難先の見直しを検討してほしい。	パブリックコメント	現在、暫定的に運用している避難計画では、都立大島高校は土砂災害において警戒を要する地域ではございません。 素案では「復興の柱4 防災まちづくりの強化」のなかで「④島内避難体制の再構築」を方針としており、今後、土砂災害防止法に基づく警戒を要する区域等に指定された場合には、見直しを検討します。
	方針⑥災害教訓の伝承と地域防災力の向上	早めに、慰霊祭の日程の遺族・住民への周知を願います。遺族の気持ちが大切ですが、住民としても供養して落ち着いた生活を取り戻し、早く再建に取り組みたい。	パブリックコメント	慰霊祭（追悼式）の日時については、開催日時が決定した段階で、速やかに周知します。
4 元町地区の復興まちづくり計画	大金沢流路改修について	生活・仕事の再建・復旧等も先へ進ませるためには、大金沢流路改修案を早急に決定してもらう必要がある。	パブリックコメント	大金沢流路改修はまちづくり事業との連携が必要です。改修案、タイムスケジュールについては、まちづくりの検討状況を踏まえ、提示してきます。
	土地利用の方針	Bゾーンについての提案 ① キャンプ場利用ができる公園 ② ミニサーキットを併設する公園 ③ テニスコート、フットサルコート、パターゴルフ等のスポーツ施設の設置	パブリックコメント	Bゾーンについては元町地区復興まちづくり分科会でも、ご意見を頂いており、今後も素案での土地利用方針に沿って整備内容を検討していきます。 ご意見については、具体的な整備内容を検討する際に参考にさせていただきます。

復興事業の進め方について	復興プロジェクト全体を、ワークブレイクダウンストラクチャ（WBS ※1）を用いて役場、支庁、工事事業者、島民に対してなすべき作業・期待される作業や完成時期・責任者、予算を明確にして進めてほしい。また、町長は最上位レベルプロジェクトの進捗状況などをPDCA（※2）で管理し、島民も復興の末端作業を担うことが大島の真の再生につながる。	パブリックコメント	素案では復興を推進するための体制として「5 復興の推進体制」で方針を示しております。 <u>ご意見については、具体的な推進体制や取組みを検討する際に参考にさせていただきます。</u>
--------------	---	-----------	--

※1 ワークブレイクダウンストラクチャ (Work Breakdown Structure)

プロジェクト管理の計画手法の一つで、作業分割構成、作業分解図を指す。プロジェクトをワークパッケージという個々の作業要素に分割し、階層的な構造に配して管理する。これらワークパッケージの階層構造に基づき、個々のワークパッケージに必要な人員を配置した組織図を作成したり、必要な予算を見積もるためのコスト構成を明らかにして、プロジェクトを管理する。

※2 PDCA (Plan Do Check Action)

どのような過程で仕事を回す事が効率よく業務を行えるようになるかという理論のこと。Plan(計画)・Do(実行)・Check(点検・評価)・Act(改善・処置)の頭文字を取って PDCA サイクルと呼ぶ。一連の業務を行う上で計画を立てて実行し、結果を評価後改善して次のステップへと繋げていく進め方をさす。